

グリーン・ライフ Green Life

快適で安全な暮らしのために

ばとう



環境現況調査の結果は、このように活用されます。

これまでの環境現況調査の結果をもとに、環境保全の観点から次のような評価目標により、適地性判断のための環境影響評価を実施し、備中沢の候補地としての適地性を判断する材料の一つとします。

適地性判断のための環境影響評価



ポイント 1

地質・地盤環境

活断層や断層破碎帯が存在しないこと、および地すべり等の不安定地形等が存在しないこと、または、対策を実施することによって対処できること。

地盤沈下地帯でないこと、および候補地が液状化地盤、軟弱地盤でないこと、または、対策を実施することによって対処できること。

地形・地質、地盤の変化による重大な影響を回避、低減できること。



ポイント 2

水環境

洪水、土石流、鉄砲水などの出水がないこと、および河川・地下水の下流に水道水源の取水口がないこと、または、対策を実施することによって対処できること。

現況流況や水質、利水目的等を考慮し、流量、水位および水質の変化による重大な影響を回避、低減できること。



ポイント 3

動物・植物

貴重な動物・植物※の生育・生息がないこと、または、対策を実施することによって対処できること。

動物、植物の生育・生息環境の変化による生活環境及び自然環境への重大な影響を回避、低減できること。

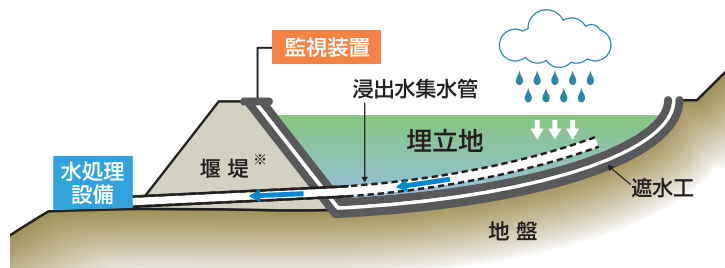
※ 貴重な動物・植物とは、絶滅が危惧されているもので保全対策が必要になるものです。
上記は主な項目です。これ以外に大気、騒音、振動、悪臭、土壌、景観、人と自然の触れ合い活動の場についても評価を実施します。

Q&A

処分場ができると地下水や川の水が汚染されませんか？

答え

処分場の遮水工は、二重シートの5層構造を採用するなど、簡単に破損しない丈夫な構造で施工されています。また、常時漏水をチェックすることにより、小さな破損部分でもいち早く発見し、修復することができます。埋立地に降った雨は、水処理設備へ速やかに集めて、きれいな水にします。この水処理設備は、大雨のときでも十分に対応できる能力を持っているので、埋立地からあふれ出すことはありません。



※ 堰堤(えんてい)とは、埋立地をせきとめる堤のことです。



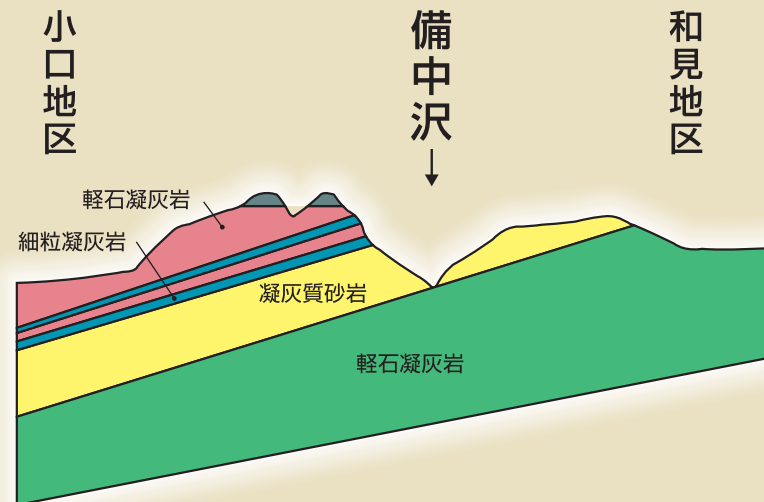
表紙写真:コナラ林

トピック

平成13～14年度に備中沢で実施した「適地性判断のための環境影響評価」における最終処分場候補地及びその周辺の環境現況調査の結果がまとまりましたので、そのあらましをお知らせします。

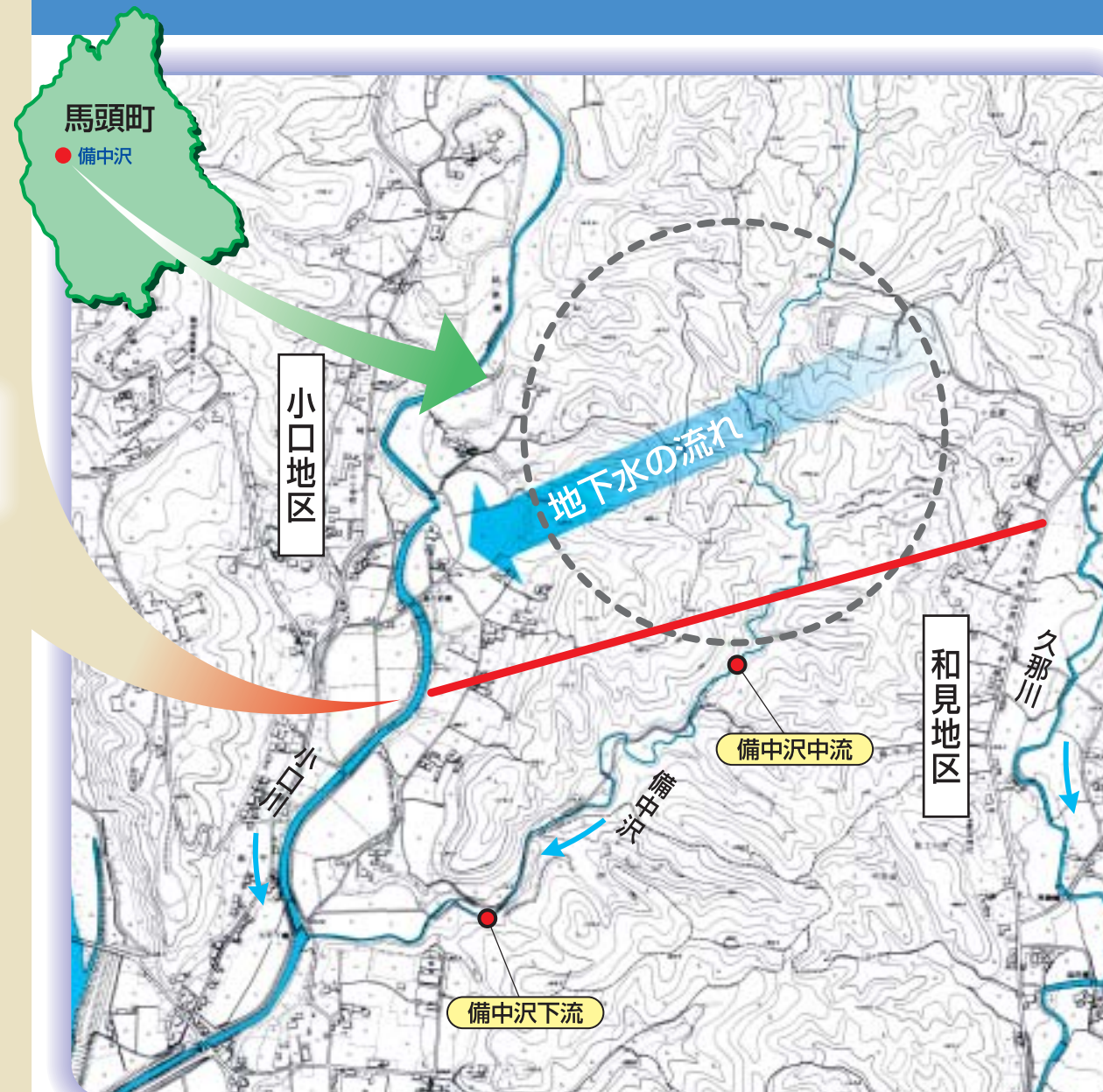
地質・地盤は

- 地盤の断面は、おおむね下の図のようになります。



- 地質は約1000～2000万年前に海底に堆積した火山灰が固まった岩(凝灰岩類)で構成されています。
- 地層は、おおむね和見地区側から小口地区側にゆるやかに傾斜しています。
- 調査地域には活断層はなく、地震時の液状化が心配される砂層もありませんでした。
- 地盤沈下が問題となるような軟弱な地盤は、ありませんでした。

備中沢はこのようなところです



動物・植物は

動物

- 哺乳類は17種を確認しましたが、貴重種*は見つかりませんでした。
- 鳥類は79種を確認し、このうち貴重種はチュウサギ、オオタカなどの5種が見つかりました。なお、貴重種の巣はありませんでした。
- 両生類は11種、爬虫類は9種を確認しましたが、貴重種は見つかりませんでした。
- 昆虫類は983種を確認し、このうち貴重種はタガメなど4種が見つかりました。
- 魚類は23種を確認し、アブラハヤなど3種の貴重種が見つかりました。



タガメ



チュウサギ

植物

- コナラーアズマネザサ群落がほとんどを占め、アカマツが点在しますが、貴重な群落は見つかりませんでした。
- 植物種は793種の生育を確認し、そのうち貴重種はミズニラ、カワヂシャなど12種が見つかりました。



カワヂシャ



ミズニラ

※ 貴重種(動物・植物)、貴重な群落とは、絶滅が危惧されているもので保全対策が必要になるものです。

水は

地下水

- 調査地域の全体的な地下水の動きは、備中沢の東側(和見地区側)から西側(小口地区側)に流れていると想定されます。

備中沢の水

- 備中沢の水量は、雨が降ったときで最大毎時3,700立方メートル程度、雨が降らないときで毎時5立方メートル程度でした。



水量測定状況

備中沢の水質

- 備中沢の水質は全般に良好でした。

備中沢の水質

項目	備中沢中流	備中沢下流	環境基準A類型
pH	7.0～7.4	7.2～7.5	6.5～8.5
BOD (mg/リットル)	0.5～1.0	0.5～1.6	2以下

- pH: 溶液の酸性、中性、アルカリ性の程度を示します。7を中性として、7より小さい値が酸性、7より大きい値がアルカリ性です。
- BOD: 生物化学的酸素要求量。水のきれいさを示す代表的な指標で、数値が大きいほど水が汚れていることを示します。
- 環境基準: 人の健康の保護及び生活環境の保全上維持することが望ましい基準。ここではA類型の値と比較しました。
- A類型: 河川の水質の環境基準で、6段階のうちヤマメ、イワナなどが生息できる2番目にきれいな水質の目標をいいます。

- 凡 例
- 候補地周辺域
 - 全体的な地下水の動き
 - 水質調査地点
 - 断面図の場所

その他は

大気、騒音、振動、悪臭、土壌については、一部の項目を除いては基準を下回っていました。また、生態系、景観や人と自然との触れ合い活動の場の現況についても調査しました。

※なお、調査報告書は、馬頭町住民生活課環境整備対策室と栃木県生活環境部環境整備課で閲覧できます。